

コバノセンナの鉢物化

*武内和俊・河崎佳寿夫・**吉村 豊・八反田憲生

(宮崎県総合農業試験場亜熱帯作物支場・*現宮崎県延岡農業改良普及所・**現同高鍋農業改良普及所)

Kazutoshi TAKEUCHI, Kazuo KAWASAKI, Yutaka YOSHIMURA and Nôrio HATTANDA :
Pot Culture Techniques of *Cassia*

本県の日南海岸の秋を彩るコバノセンナは沿道修景用として利用されているが、枝が徒長して草姿が乱れるため、鉢物化には難点があった。そこで矮化剤を用いて鉢物化を図ると共に、日長処理による開花調節について検討した。

1. 矮化剤による伸長抑制

1984年4月14日に挿し木したものを6月19日に鉢上げ・摘心し、7月4日、側枝の新芽が展開した時に、B-9 4,000ppm, CCC4,000ppm, アトリナール4,000ppm, スミセブン50ppm液をそれぞれ莖葉全体に散布した。伸長抑制効果はアトリナール処理とスミセブン処理で認められたが、アトリナール処理では薬害を生じ、散布数日後に落葉した。

第1表 矮化剤が生育・開花に及ぼす影響

処 理 区	側枝長	開花日	着花節位	花房数
ppm	cm	月、日	節	個
B-9 4,000	49.1	10.12	24.6	4.7
CCC 4,000	49.4	10.13	28.1	4.9
アトリナール4,000	17.5	10.16	15.0	2.3
スミセブン 50	19.7	10.11	22.2	4.7
無 処 理	55.0	10.13	27.4	4.8

2. スミセブンの処理方法及び処理濃度

1986年4月18日に挿し木したものを7月8日に鉢上げ・摘心し、7月14日、側枝の新芽が伸び始めた時に、5, 10, 25, 50ppm液を1鉢当たり5mlずつ莖葉散布した、また原液(500ppm)を0.05, 0.1, 0.5mlずつ土壤灌注した。鉢姿は莖葉散布の25ppm及び土壤灌注の0.1ml処理で良好であった。開花は土壤灌注の0.1, 0.5ml処理で無処理に比べて大幅に遅れたが、莖葉散布処理では差がなかった。

3. 日長処理による開花調節

1983年6月14日に挿し木したものを1984年6月13日に鉢上げ、摘心し、短日処理(8時間日長)は7月2日及び7月16日からそれぞれ8月5日まで、長日処理(深夜光中断4時間)は7月25日から8月15日及び8月30日まで行った。また1985年3月5日に挿し木したものを6月13日に鉢上げ・摘心し、短日処理は7月25日から8月15日まで、長日処理は7月10日に摘心し、8月5日から9月5日まで行った。処理後はいずれも自然日長下で管理した。日長処理によって開花の調節が可能であり、短日処理では、処理開始後約40日で開花した。また長日処理では、処理終了後55~60日で開花した。8月5日までの

短日処理では、どちらも開花期間が短く(12~18日間)終花後無処理と同時期に再開花したこと、8月15日までの長日処理では無処理と比べて開花日にあまり差がなかったことから、花成に向かう自然日長の限界は8月10日以降になるものと考えられる。

第2表 スミセブンの処理方法及び処理濃度が生育・開花に及ぼす影響

処 理 区	側枝長	開花日	着花節位	花房数
ppm	cm	月、日	節	個
莖葉散布 5	30.6	10.21	22.1	8.1
" 10	17.2	10.24	23.2	4.9
" 25	15.7	10.24	22.4	4.9
" 50	5.3	10.24	19.7	4.9
土壤灌注 0.05ml	17.0	10.19	23.0	5.8
" 0.1	9.9	10.28	21.8	4.9
" 0.5	3.2	10.31	16.7	3.9
無 処 理	48.1	10.22	22.3	4.7

第3表 日長処理が開花に及ぼす影響

処理方法	処理期間	開花日	到花日数	着花節位	花房数
	'年、月、日	月、日	日	節	個
短日処理	'84.7.2~8.5	8.10	39	9.3	3.8
"	'84.7.16~8.5	8.23	38	13.3	1.7
"	'85.7.25~8.15	9.2	39	21.1	3.4
長日処理	'84.7.25~8.15	10.13	59	20.8	2.8
"	'84.7.25~8.30	10.27	58	33.3	3.6
"	'85.8.5~9.5	10.31	56	22.6	4.2
無 処 理	'84	10.8	—	20.2	3.2

4. まとめ

一連の試験結果からコバノセンナの鉢物化には、矮化剤としてスミセブンをいい、その25ppm液を摘心後新芽が伸び始めた時期に、莖葉散布処理することが適当である。また日長処理によって開花調節が可能であり、7月下旬から8月15日以降まで短日処理することで9月上旬から、また8月10日から9月上旬まで長日処理することで11月上旬から開花させることが可能である。